

◆基本方針Ⅴに関する総合評価

基本方針Ⅴ	生涯学び活躍できる環境づくり	総合評価：D
-------	----------------	--------

1 施策の概要

目指すもの	県民が「だれもが、いつでも、どこでも」学べるよう、社会教育施設をはじめ様々な学習機会を充実させるとともに、ひとづくり、地域づくりに取り組み、学んだ成果を地域の諸課題の解決に有効に活用するなど、生涯にわたり学び活躍できる循環型の生涯学習社会の実現を図る。
施策の展開方向	1 多様な主体の連携・協働による生涯学習の環境づくり 2 学びを活かした豊かな地域社会に向けた支え合うひとづくり 3 活力ある地域づくりに向けた地域社会と学校の連携の促進

2 基本方針Ⅴの総合評価

(1) 現状・実績

- 多様な主体の連携・協働による生涯学習の環境づくりについて、市町村立図書館や大学、学校等の図書館等との連携により、県内全域を対象とした、県立図書館の書籍を貸し出す遠隔地向けサービスを実施し、様々なニーズに対応した学習機会を提供した。

また、県立図書館において、電子書籍サービスや預かり保育サービスを実施し、高齢者や障害者、子育て世代をはじめ、すべての県民が継続して学習できる機会の提供に努めた。

さらに、インターネットを活用した、講師紹介や市町村の生涯学習情報など多様な学習情報を提供するとともに、X等のSNSによる情報発信の充実を図った。これにより、県民が必要な情報にアクセスしやすい環境の整備が進んだ。

- 学びを活かした豊かな地域社会に向けた支え合うひとづくりについて、生涯学習指導者研修会を開催し、市町村や地域で社会教育的な活動に携わる人材を対象に、生涯学習に関する基本的な理解を深めるとともに、地域における学びと実践の循環を進めるために必要な知識や技能の習得を図った。

また、家庭教育支援の推進にあたり、補助金により市町村を支援するとともに、家庭教育を支援する人材の養成を目的とした研修会を実施したことにより、家庭教育支援チーム※が増加した。

さらに、県立文書館所蔵の古文書を活用した地域の民俗・暮らし・文化・産業等を紹介する講座を開催し、地域の歴史や人々の生活の知恵を学ぶ機会を提供することで、魅力ある新潟の地域資源を再発見し、郷土への理解の深化を図った。

※ 家庭教育支援チーム：子育て経験者をはじめとする地域の多様な人材で構成された自主的な集まり。文部科学省が登録しており、地域において子育てや家庭教育に関する相談対応や、親子参加型の講座・活動の機会、地域情報を提供している。

- 活力ある地域づくりに向けた地域社会と学校の連携の促進について、地域連携コーディネーターや学校の管理職等を対象とするコミュニティ・スクール研修会等を実施し、学校と地域が連携・協働する体制の構築を図った。
- また、放課後子ども教室や土曜学習等を進めるにあたり、補助金により市町村を支援するとともに、子どもを見守り、学びや体験活動を支える地域の人材を確保するための研修会を実施した。

(2) 課題・今後の方向性

- 多様な主体の連携・協働による生涯学習の環境づくりについて、生涯学習が身近なものとして県民に十分浸透しておらず、学び続けることの大切さが十分に理解されていないため、教育の日など様々な機会を活用した周知啓発や学習情報の発信を充実させる必要がある。

県立図書館の遠隔地向けサービスや電子書籍サービスの利用が伸び悩んでいることから、各サービスの有用性の広報・周知に努め、広く県民に知ってもらうことが必要である。

- 学びを活かした豊かな地域社会に向けた支え合うひとづくりについて、地域課題の解決のためには、多様な分野において社会教育人材が必要であり、その量的拡大を図るために、誰もが受講しやすいよう、多様なニーズに応じた内容や形態の研修を提供する必要がある。

社会全体で家庭教育を支援する体制づくりが求められているが、国に登録されている家庭教育支援チームは一部の市町村に限られており、未導入市町村へ導入の働きかけが必要である。

- 活力ある地域づくりに向けた地域社会と学校の連携の促進について、地域学校協働活動の導入状況や活動内容について、市町村や地域によって差が見られることから、課題を抱える市町村に対しては、現状や地域の実情を丁寧に把握した上で、学校側の理解促進、地域との協働意識の醸成、役割分担の明確化など、必要に応じた助言や情報提供、働きかけを行い、取組の充実につなげていく必要がある。

地域社会と学校の連携を支える人材が、高齢化等により後継者不足の状況にある。引き続き地域連携コーディネーターや学校の管理職等向けの研修会を実施し、次世代の人材育成を進めることで、地域と学校の連携が持続的に行われるようにしていく必要がある。

(3) 総合評価

定量評価の評点の平均値は、2 となった。

多様な主体との連携・協働による学習機会の充実や社会教育人材の育成、地域と学校の連携促進などにより、生涯学習を通じて県民が学び活躍できる環境づくりは進展している一方で、生涯学習の意義や各種サービスの周知、人材の確保・育成、地域間の取組格差への対応などの課題があることから、引き続き関係機関と連携しながら取組の充実を図る必要がある。

基本方針Ⅴ全体の総合評価はDとする。

➤ 基本方針Ⅴに関する指標の進捗状況

1 多様な主体の連携・協働による生涯学習の環境づくり

指標名	県民一人当たりの社会教育関係施設利用回数			
基準値 (H 2 9)	実績値 (R 5) A	目標値 (R 7) B	達成率 A / B %	評点
3.79 回	3.05 回	4.00 回	76.3%	2
【指標の分析】 実績値は基準値を下回り、目標を達成できなかった。 これは、感染症の拡大により外出機会が減少したこと等の行動変容による影響が大きいと考えられる。公民館等ではオンライン講座を実施し、県立図書館では書籍を貸し出す遠隔地向けサービスや電子書籍サービスを提供しているが、利用が伸び悩んでいる。 多様な学び方に応じた講座の充実や情報発信の強化により、社会教育施設の利用を促進し、だれでも、いつでも、どこでも学べる環境の整備を図る必要がある。				

2 学びを活かした豊かな地域社会に向けた支え合うひとづくり

指標名	生涯学習指導者養成講座・研修の参加人数			
基準値 (R 3)	実績値 (R 7) A	目標値 (R 7) B	達成率 A / B %	評点
2,463 人	2,700 人	6,000 人	45.0%	1
【指標の分析】 基準値に比べ、実績値は増加しているものの、目標値を達成できなかった。 オンライン講座を導入したことや、受講対象、研修内容の見直し等により、参加者数は増加したものの、研修を開催する市町村の施設数の減少や研修回数、研修の周知方法などが不足していたこと等により目標値を大幅に下回った。 生涯学習推進センターで作成している広報紙やSNSにより、主に市町村や学校、生涯学習関係機関に対し、研修情報を周知するほか、指導者養成講座等を開催する市町村担当職員等に対して、企画・運営に係る研修を実施するなどにより、社会教育活動の中心となって地域を支える人材の確保・育成を図る必要がある。				

3 活力ある地域づくりに向けた地域社会と学校の連携の促進

指標名	地域学校協働活動取組校の割合			
基準値 (R 3)	実績値 (R 7) A	目標値 (R 7) B	達成率 A / B %	評点
89.2%	88.8%	100%	88.8%	3
【指標の分析】 地域学校協働活動に取り組む学校の割合は、統廃合等によりわずかに減少し、目標を達成できなかった。 市町村教育委員会や地域連携コーディネーターに対して、地域学校協働活動に関する研修会を開催することにより制度への理解が進み、地域と学校の連携・協働は着実に進展していると考えられる。このため、未導入の市町村に対し、活動モデルや成功事例の紹介、研修機会の提供などにより導入を促進し、地域の教育力を活かした学校支援と学校の力を活かした地域づくりを推進する。				